

理工学基礎実験レポート

実験日	2207 年 10 月 31 日 (火・ <u>金</u>) (<u>午前</u> ・ 午後)
実験題目	D-1「表示系におけるヒューマンファクターズ」 D-1-1 VDT 作業における人間の視覚特性に関する実験

学科	異世界生活科	クラス	S	学籍番号	19850325
報告者氏名	菜月 昂				

共同実験者		

レポート提出日	1961 年 11 月 6 日 19 時 2 分
レポート再提出日	年 月 日 時 分

室温	
湿度	
気圧	

1. 目的

公開用に本文を削除.


2. 実験 A-1

公開用に本文を削除.

2.1. 実験方法


公開用に本文を削除.

2.2. 実験結果及び考察



画像サンプル

図 1: 計器の形状と読み取り誤差のグラフ




画像サンプル

図 2: 計器の形状と正答率のグラフ

3. 実験 A-2


公開用に本文を削除.

3.1. 実験方法



画像サンプル

図 3: ブラックの針を用いた計器デザイン



画像サンプル

図 4: シルバーの針を用いた計器デザイン

画像サンプル

図 5: レッドの針を用いた計器デザイン

3.2. 実験結果及び考察

画像サンプル

図 6: 針の色と読み取り誤差のグラフ

画像サンプル

図 7: 針の色と正答率のグラフ

画像サンプル

図 8: 純色の誘目性尺度値 (背景別)

神作博. “画面構成法による環境内の色彩の誘目性に関する研究”, 日本眼科学会, 1987, p.72.
より引用, 図は新規に作成した [1].

4. 結論

実験全体を通じて、読み取り時間を長くすることにより読み取り精度が向上することがわかった。また、計器形状や針の色が読み取り精度に大きな影響を与えることも明らかになった。

参考文献

- [1] 神作博,「画面構成法による環境内の色彩の誘目性に関する研究」,日本眼科学会雑誌, p. 72, 1987.